

審査結果報告書

2022年 8 月 26 日

主 査 氏 名 佐野 肇 

副 査 氏 名 高橋 香代子 

副 査 氏 名 上田 通人 

副 査 氏 名 深瀬 裕子 

1. 申請者氏名 秦 若菜
:

2. 論文テーマ : 流暢性形成法の効果に関する研究 ―音響分析を用いた発話行動の変化の検討

3. 論文審査結果 :

本研究では16歳～56歳の吃音者42名に対して、流暢性スキルの習得を目標とした治療を3回実施し、その前後で以下の評価を実施し治療効果を検討している。評価には文章を音読させた録音データを使用し、調音部分、ポーズ、吃症状部分の3区分に分けて、調音速度、ポーズ数、ポーズの平均持続時間、吃頻度を検討した。なお吃症状の判定は治療に関与していないST2名により行われた。

治療後に吃頻度は18.2%から2.2%に、調音速度は7.24 モーラ/sec から6.05 モーラ/sec に、ポーズ数は23.5回から19.2回にいずれも有意に低下した。一方、文間ポーズ平均時間は1.26sec から1.72sec へと有意に延長した。治療前の成績ではポーズ数とポーズの平均持続時間との間に有意な相関が認められた。治療実施後の成績では、調音速度と文間ポーズ平均持続時間との間に弱い負の相関が認められた。治療後の吃症状の有無に対して、治療前の吃頻度と治療経過日数の影響を検討したところ有意な関連性が認められなかった。治療により1フレーズで発話できる長さが延長し文間ポーズ時間が延長していることが確認され、発声運動に対するコントロール力が向上したと考察した。

研究は適切に実施されており、論文の記載も適切である。発表および質疑応答も的確に行われた。審議の結果、申請者は博士の学位に相応しい能力を有するものと判断された。